

# 世界が拡がり、 自分の小ささを知った。 関大で得た視野が ビジネスをニュートラル に支える。

株式会社シンカ 代表取締役

## 江尻 高宏氏

1976年京都生まれ、滋賀県育ち。

関西大学工学部管理工学科卒業、

関西大学大学院理工学研究科システム理工学専攻修了。

2社での就職を経て、2014年 株式会社シンカを設立。

妻と子供2人（小5、小1）の4人家族。

「土日は仕事が多くて、家族との休日は月に1、2日。

まだまだ起業したてのベンチャーですから」



昨今、電話とコンピューターを連動し、着信時にお客様情報を表示するCTIシステムの普及が進んでいます。そのひとつ、小規模ユーザー思いの「おもてなし電話」で注目される株シンカ。経営者の江尻高宏さんは、関大工学部の院を終えると起業の舞台を東京へと定めました。院生時代「ITで起業する」という目標からライフプランを考えた時、東京しかありえなかったという江尻さん。スタートアップが視野の就活って、無縁の東京で経営者になるって、どんなことですか？

## インターネットで、自分の手で世の中を変えよう！ 激動のIT革命に運命を感じた20歳

ITでの起業は学生の時に決めました。きっかけは、ウインドウズ95の登場です。それまでのPCはコードを打つだけで特に面白いものではありませんでした。それが95で突然グラフィカルになり、ユーザーインターフェイスが格段に良くなった。お祭り騒ぎでしたよね（笑）。こんなにPCが使いやすくなつた！という驚きとともに、インターネットも幕開けで、とてつもなく面白い可能性を感じたんです。実際に外国の全く知らない人とメールして「本当に世界とつながるんだ」と実感した時、「インターネットを使って、ITで、いろんなことが変えられるのでは？」と直感し、会社を作ろう！と決心しました。

すぐ、起業をメインに60歳位までのライフプランをたてました。まず考えたのは、どこなら一番成功しやすいか。結論は「今はまだ東京」。少し前までIT業界の売上の7割が関東圏で、一極集中は明らかでした。大阪でも一地方都市です。そこで東京で起業することは決定。でも、まずは就職です。1社に3年ペースで、3つの会社で約10年色々勉強させてもらい、30代前半で会社を作ろうと。全然その通りになってないですが（笑）。ただ結果としてはそれがすごく良かった。

# 新しい出会いもチャンスも星の数 東京というステージはチャレンジャーを愛する

1社目は大手ユーザー系Slerの日本総研で、8年弱いました。お客様は大手企業が中心で、仕事は何百人というプロジェクトで動く。数年単位で、チーム総力で1つの仕事に向かっていくことを学べました。

その後、船井総研に移って7年弱。今度は同じコンサルでも中小企業相手です。一人でお客様のところに行き一人で課題を解決する、前の日本総研とは真逆の経験ができる、これで日本のビジネスの現場がひと通り掴めた。例えば、大手はメールやウェブの画面を使って取引が進んでいきますが、中小は電話、FAXがばんばん来る(笑)。そんなリアルな経験が今の会社に活きてています。

知る人もいない東京行きは怖くなかったか?いえ、東京に行くこと自体ワクワクで、むしろ早く出たかったですね。東京ならではの様々な出会いやチャンスで、大きなことが色々できるん

じゃないかって。実際、大阪に戻ろうとは全く思わずここまで来ました。東京に来て良かった理由は2つあります。

まず市場がぜんぜん違うこと。お客様もパートナーも会社さんもたくさんあり、様々な取引もスムーズに進みます。例えば、ビジネスは自社だけではムリで、色々な不足部分を補ってもらう協業パートナーを見つける必要がありますが、東京だとその出会いの場、異業種交流会も星の数ほどあるんじゃないかな。

あともう一つ、よく云われることですが、東京は新しいものを受け入れる土壌がある。新しい取り組みでもひとまずやってみる。一方関西は、リスクを取って新しいことをやるより「昔から付き合いのあるこの人が言うのならやります」となる。関西は人付き合いを大切にしている地域で、新しい人が飛び込んだり、新しい取り組みをやるにはちょっと力が必要になると感じます。



## 遊びでは自分が何者かわからない 本気で「働く」ことでカタチにしてきた

私にとって、働くことは「自分の表現」です。働き方改革の時代にどうかと思われるかもしれません…

たとえば趣味の読書で「一日100冊読みきるぞ!」とがんばつたところで、それは自己表現になりえないでしょう。

自分の能力や限界をカタチにできるのは、仕事しかありえないと思う。

私が自分自身の器を知ったり、自分の可能性を広げてくれたものはずっと仕事だったし、まさに仕事=自分なんです。

学生のみなさんも、働くことで初めて「自分ってここまでやれる人間だったのか」とわかるんじゃないかな。

とはいっても99%苦しいものです。経営者だからではなく、サラリーマンをやってた時でもそう。努力し続けないといけない、失敗して怒られることもある。でも、苦しみを乗り越えてうまく行った時、ボーン!と大きく返ってくる、あれは仕事だけの喜び。本当にものすごくうれしいものなんです。

## 江尻さんのある1日

- 5:30 起床  
●ジョギング (\*週3~4回)
- 6:30 入浴
- 7:00 家族と朝食 (\*大事な時間)  
●トンカツ、コブサラダ、山盛りご飯、スムージー
- 8:30 出社  
●メール返信  
●きのうのふりかえり (\*ノート)  
●ミーティング
- 9:30 朝礼  
●プレゼン資料作成  
●ミーティング
- 12:30 昼休憩 (\*昼食はとらない)
- 13:00 ●情報インプット  
●来客  
●マスコミ取材応対  
●報告会議
- 16:00 パートナー会社を訪問
- 17:30 帰社  
●データチェックなど
- 18:00 取引先との会食へ
- 21:00 レイトショーで映画鑑賞 (\*スッキリする作品)
- 23:30 帰宅  
●スカイプ英会話
- 24:00 入浴
- 24:30 就寝
- (\*食事は朝と夜の1日2食と決めている)



## おもてなし電話

飲食業、土業など小ビジネスにも広がるCTI  
コールと同時に、顧客情報を見ながら応対できる

電話とコンピューターを連動させた顧客情報管理システム・CTIを活用した電話応対システム電話。着信すると即時に顧客情報がPCやタブレットに表示され、担当者以外も顧客の履歴をふまえた満足度の高い応対が可能になる。

株式会社シンカ（東京都新宿区）

<https://www.thinca.co.jp>

## 就活は、関大らしいバイタリティでぶつかっていい 経営者への道、東京という視野をもっと！

確か1回生の時「関大卒業生に多い職業知ってる?実は経営者だよ」と聞きました。「社長という道」を、その時初めてインプットされたと思います。実際、関西で関大出身の経営者は多いですね。

経営者になる一つの道は、「関大卒はここに行く人が多い」という規定ルートに乗らず、本当に自分の好きなものを見つけて、そこにつながる就活の場で関大生の元々持っているバイタリティをぶつけることだと思います。私が思うに、関

大生はすごくパワーがある。他の大学と比較して「関大生って元気だよね、面白いよね」と云われたりする。そのバイタリティを、プライベートだけじゃなく就職でも堂々とぶつけてみたら、すごく面白い道が開くと思うんです。就職になつたら急にかしこまるとか、いい子ぶる必要はぜんぜんない。あと思うのは、関大生はもっと東京に出てもいい。関西に残りたい人、多いですね。もっと東京で活躍して、知名度を上げてほしいですね。関大のパワーは東京で受けると思います。

# 10ヶ月バイトし、2ヶ月は試験勉強 自分という資本で「選択と集中」トレーニング

関大に行こうというのは、割と早いうちから決めていました。大学どこいこ?と調べだしてすぐ「関大はモテる!」という話を聞いたんで(笑)。

学生時代、1~3回生まではバイトに明け暮れてました。塾と家庭教師、あと深夜コンビニを掛け持ち。工学部なので実験と必修科目だけは出て、大学に行くのは週3~4日でした。でも前期、後期試験の1ヶ月前になると一転バイトは全て休み、勉強一色に切り替えました。図書館にこもって朝から

晩までずっと。あれこれやると興味が散るタイプなので、バイトの時はバイト、勉強の時は勉強と自分でバッサリ切り分け、背水の陣をあえてやりました。

私はのんびりするのが好きじゃなくて、何かやってみたい、動いてみたい方。時間は限られている、と絶えず意識していました。それが多忙な経営という立場を選ぶのにつながったし、会社をやる上でプラスになったと思います。

## 「あなたにとって関西大学とは?」

関大の4年間は、まさに私の青春ですね。出会った友人たちも面白かった。仲間で旅行したり、ワクワクする経験をいっぱいして「これが人生だ、人生は楽しない」と気づけました。

大学ってまさに大人の入口。半分コドモだからギリギリ許されてできた色々なことで、本当の大人になれたと思います。今、大学生活からの学びって驚くほど社会で役立ってるな、

と思います。例えば仲間が集まって全て自分たちで企画した旅をするなんて、いわばプロジェクトです。一気に人脈が広がったのも大学でした。他校との交流で様々な人と出会って新しい視野が開け、自分の考えの狭さに気付けた。今、仕事で普通に「自分の考え方も一つの視野にすぎない」と思えることは本当に役立っています。関大の中でのどの学びを抜きにしても、今の自分はないといえますね。

(撮影・取材:関西大学東京センターにて)



### KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等を紹介する特集です。

◀ 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをすること。時には取材にも参加します。どうぞよろしく!



### 関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL: (03)3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671  
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式Twitter



公式Facebook